

# 魚梁瀬の稜線 東編

湯桶とは湯茶を入れる木製の器。この山で良質な木材が採れたため器を作る木地師が住んでいたこと由来する。那賀川と流南川の中央部に位置する流域を代表する名山。「四国の1000m山」より

魚梁瀬のもと奥まった甚吉森をピークに緩やかな尾根をもつこの山には夏の季節であればフナのは瑞々しい緑の葉をまじった衣が、白い幹と相まって俗世間と遠く離れた稜線に静かで美しい森の世界を見せてくれる。

「四国の1000m山」より

二宮和義の読みかたで上の字を訓読み、下の字を音読みするのを湯桶読みという。

注 甚吉森ピークを下るとすぐに那賀町南川口への歩道との分岐がある。

甚吉森 1423m

本山

中川林道

汗谷山

甚吉森登山口

よこいよ 疲れて歩きたくなくなったら、リュックをおろして木に荷をあけてみる。不思議と力が回復してくる。

座りまわしもうと再スタートするのがとてしんどくなる。

小枝をかきわけ進む

徳島県倒木林

若い広葉樹林

八度山

帰りにはあんなに登りがとてしんどく感じる

刃ならびと樹は、假うの身体能力にあこがれる。

甚吉森登山口

甚吉森～お化け杉 1:30～2:00  
お化け杉～湯桶丸 1:30～2:00

平相で緩やかな尾根なので、つい歩くペースを上げてしまおう。地図やGPSでよく確認して歩きたい。



うおー

うお山よりの目とめ

ヒメツグ広葉樹

通称うお山

大展望

南が大きく開けて雁ヶ山をはじめはるかみ山並みの向こうに太平洋も展望できる

未立木地 ササ原が一面に広がっている

尾根に巨杉や白骨杉が点在

白骨杉

大杉大杉

大ヒメツグ

お化け杉

山番所があたどる

白骨杉

赤石山

高面山

稜線には、深い山の中で静かに命を終えた大木の白骨木が所々に立っている。何百年もの間、風や雪に耐えて、孤高であり続けたその時間を思うと、あんなに壮絶さに思われ身震いしてしまう。やがて朽ち倒れてせめて何百年かののちに土に還っていくことだろう。

注 境界標を見失わないように。

一人で静かな山中を歩いていると、昔はは異向まもしなりのかとても尊く見えて自分がこの世のすべての関わりの中で生かされてきて生きていることを感じられる。

木地師について

スゴイ迫力!!

馬路村へ木地師が来たのは近世末の村人とも交流があったとされる。木地師は「日本国中山 御免」の繪旨を持ち、関所や番所を通り「ヤキトチ」をサクラ、マツ等の生えている場所に小屋を建て、「い合目代(り)次第」の特権を持っていた。木地師は通常、4家族が一団となって4工程を分担したとも、また2~3家族という例も多かったという。

製品は家族から選ばれた者が売りに行き、帰りに必要な食料などを仕入れていた。繪旨とは天皇のことばで、木地師の繪旨で百くは享平5年(1072年)の朱雀天皇のものがある。魚梁瀬東川山系の最深部の一角に木地師の墓がある。馬路村の歴史と伝説より

湯桶丸 1372m

四国百名山

急 すぐ下り林道

天然林

根一本出し

将部

歩道不明瞭

尾根歩行道

甚吉森の奥深い山容見える

将部

お化け杉-指導標間

大木-名木のオンパレード

湯桶丸まで 1300m

影地山

馬路村へ木地師が来たのは近世末の村人とも交流があったとされる。

木地師は「日本国中山 御免」の繪旨を持ち、関所や番所を通り「ヤキトチ」をサクラ、マツ等の生えている場所に小屋を建て、「い合目代(り)次第」の特権を持っていた。

木地師は通常、4家族が一団となって4工程を分担したとも、また2~3家族という例も多かったという。

製品は家族から選ばれた者が売りに行き、帰りに必要な食料などを仕入れていた。

繪旨とは天皇のことばで、木地師の繪旨で百くは享平5年(1072年)の朱雀天皇のものがある。

魚梁瀬東川山系の最深部の一角に木地師の墓がある。

馬路村の歴史と伝説より

湯桶丸とは湯茶を入れる木製の器。この山で良質な木材が採れたため器を作る木地師が住んでいたこと由来する。

那賀川と流南川の中央部に位置する流域を代表する名山。

「四国の1000m山」より

二宮和義の読みかたで上の字を訓読み、下の字を音読みするのを湯桶読みという。

湯桶丸 1372m

四国百名山

急 すぐ下り林道

天然林 根一本出し 将部 歩道不明瞭 尾根歩行道 甚吉森の奥深い山容見える 将部 お化け杉-指導標間 大木-名木のオンパレード 湯桶丸まで 1300m 影地山